

創世記

第一章

一 はじめに神、天と地とをつくり給へり。  
 二 地は形なく、空しくして闇、深淵の面にあ  
 三 り。神の霊、水の面と覆いあり。神の光  
 四 あり。神の光と闇とを分ち給へり。  
 五 神の光と闇とを分ち給へり。  
 六 神の光と闇とを分ち給へり。  
 七 神の光と闇とを分ち給へり。  
 八 神の光と闇とを分ち給へり。  
 九 神の光と闇とを分ち給へり。  
 十 神の光と闇とを分ち給へり。

日本ルーテル神學専門學校原稿用紙

一 神の光と闇とを分ち給へり。  
 二 神の光と闇とを分ち給へり。  
 三 神の光と闇とを分ち給へり。  
 四 神の光と闇とを分ち給へり。  
 五 神の光と闇とを分ち給へり。  
 六 神の光と闇とを分ち給へり。  
 七 神の光と闇とを分ち給へり。  
 八 神の光と闇とを分ち給へり。  
 九 神の光と闇とを分ち給へり。  
 十 神の光と闇とを分ち給へり。



〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

一 草と種を地にし給へり。二 地を若

草と種を地にし給へり。三 神を善しと見給へり。四 天の

光を照らす事と給へり。五 天の

大空に光あり。六 神を善しと見給へり。

七 天の光を照らす事と給へり。八 天の

大空に光あり。九 神を善しと見給へり。

十 天の光を照らす事と給へり。十一 天の

大空に光あり。十二 神を善しと見給へり。

十三 天の光を照らす事と給へり。十四 天の

日本ルーテル神學專門學校原稿用紙

一 天の光を照らす事と給へり。二 天の

大空に光あり。三 神を善しと見給へり。

四 天の光を照らす事と給へり。五 天の

大空に光あり。六 神を善しと見給へり。

七 天の光を照らす事と給へり。八 天の

大空に光あり。九 神を善しと見給へり。

十 天の光を照らす事と給へり。十一 天の

大空に光あり。十二 神を善しと見給へり。

十三 天の光を照らす事と給へり。十四 天の

大空に光あり。十五 神を善しと見給へり。

十六 天の光を照らす事と給へり。十七 天の

大空に光あり。十八 神を善しと見給へり。

十九 天の光を照らす事と給へり。二十 天の

大空に光あり。二十一 神を善しと見給へり。

二十二 天の光を照らす事と給へり。二十三 天の

大空に光あり。二十四 神を善しと見給へり。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇



×「似せし」

×「似せし」

日本ルーテル神學專門學校原稿用紙

二 給(り) 神(を) 視(し) 言(い) け(り) 生(め) ば

三 殖(之) 海(の) 水(に) 満(ち) 又(も) 鳥(は) 地(に) 殖(之) 也(と)

四 又(も) 朝(来(り) 神(を) 言(い) たま(は) け(り) 地(は) 生(物) と 是(の)

五 類(に) した(か) け(り) 又(も) 家(畜) と 爾(亦) 亦(も) 是(の) 地(の) 獸(と) 是(の)

六 類(に) した(か) け(り) 出(た) 也(と) 即(ち) 是(の) 地(の) 獸(と) 是(の) 類(に) した(か) け(り)

七 地(の) 獸(と) 是(の) 類(に) した(か) け(り) 家(畜) と 是(の) 類(に) した(か) け(り)

八 又(も) 地(に) 爾(亦) 亦(も) 是(の) 類(に) した(か) け(り) 我(ら) に 似(せ) せ(し) 也(と)

九 給(り) 神(を) 視(し) 言(い) け(り) 我(ら) に 似(せ) せ(し) 也(と)

十 給(り) 我(ら) に 似(せ) せ(し) 也(と) 我(ら) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

を 告(り) 海(の) 魚(と) 空(の) 鳥(と) 家(畜) と 地(の) 獸(と)

一七 地(に) 爾(亦) 亦(も) 是(の) 類(に) した(か) け(り) 我(ら) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

一八 其(の) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と) 即(ち) 神(の) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

一九 給(り) 神(を) 視(し) 言(い) け(り) 我(ら) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

二〇 神(を) 視(し) 言(い) け(り) 我(ら) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

二一 殖(之) 地(に) 満(ち) 也(と) 又(も) 海(の) 魚(と) 空(の) 鳥(と)

二二 地(に) 動(く) 凡(そ) 生(物) と 是(の) 類(に) した(か) け(り) 我(ら) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

二三 神(を) 言(い) たま(は) け(り) 我(ら) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

二四 種(を) 生(じ) 凡(そ) 草(と) 種(を) 生(じ) 木(の) 實(と)

二五 凡(そ) 木(と) 亦(も) 亦(も) 是(の) 類(に) した(か) け(り) 我(ら) 像(を) 如(く) 人(に) 似(せ) せ(し) 也(と)

たき



一 乃のよし。 三〇 夫に地、凡の獣と、空の凡の鳥と。  
 二 汝に生命ある所の凡の地に角子もろくに休むな食物  
 三 七して凡の青草と草とを踏ふなと。  
 神を告げたまへし。 凡の地を見渡ししに。 視大。  
 甚に憂かりき。 朝、二日第六日なり。  
 第一二章 かくて天と地おひひさし。 神成りぬ。  
 神、第七日にその告げ給へる業を終へたまひ。  
 第七日にその告げ給へる凡の業、休み給へり。  
 神、第七日を視し、その業を聖と給へり。 是は神  
 へのつくり給へる凡の業、三日休み給へたる

日本ルーテル神學専門學校原稿用紙

四 乃のよし。 四 天、地をつくりたまへる由來なり。  
 五 主なる神、地と天とを造りたまへる日に。 野の  
 凡の灌木は未だ地にあらざり。 野の凡の草は未だ  
 生じざりき。 是は主なる神、雨を地に降させ給へり。  
 六 五と耕す人あかりけり。 大、雨を地に降させ給へり。  
 七 土の面を遍ぬくうるほせり。 主なる神、土の塵  
 をもて人を作り、生命の息をその鼻に吹き入れ  
 給へり。 人すやほち生ける者となりぬ。 主なる神、  
 東の方エデンに園と設け、その作りし人を其  
 九 處に置き給へり。 九 主なる神、見よに、美しく、食

魂



みに善き凡この木と土より生じしめ、また園の中<sup>中</sup>に  
 生命の木と善悪と知<sup>知</sup>の木とを生じしめ給へり。<sup>(五)</sup>  
 河<sup>河</sup>エデンより出でて園をうるほし、<sup>(其)</sup>處より分れて四つ  
 二源とあり。<sup>(二)</sup> その第一の源はピヨレと<sup>子</sup>。ネ金<sup>本</sup>あ  
 三、ハヒラの<sup>子</sup>金地をわぐるものなり。<sup>(一)</sup> その地の金は良  
 三、<sup>彼處に</sup>樹<sup>に</sup>脂と<sup>編</sup>瑪瑙と<sup>事</sup>處處あり。<sup>(三)</sup> 第  
 二の<sup>バルサム</sup>河<sup>名</sup>はギホルと<sup>名</sup>。ニホ<sup>本</sup>クリの金地をわぐるものな  
 四、<sup>(四)</sup> 第三の河<sup>名</sup>はヒテケルと<sup>名</sup>。ニホ<sup>本</sup>アツシエルの  
 五、東に流るものなり。第四の河はフラトなり。<sup>(一)</sup>  
 主なる神<sup>エ</sup>の人と取らせ、<sup>(其)</sup>エデンの園に置き、<sup>(ニ)</sup>木と

日本ルーテル神學専門學校原稿用紙

六、耕し、その土を守らせ給へり。<sup>(六)</sup> 主なる神<sup>エ</sup>の<sup>人</sup>に命じ  
 て<sup>言</sup>いたすは、<sup>園</sup>の凡この木の實は汝<sup>の</sup>まま  
 七、<sup>眼</sup>おと<sup>得</sup>。<sup>(七)</sup> 土の<sup>善</sup>悪を知<sup>の</sup>の木は、<sup>汝</sup>の<sup>實</sup>  
 食ふべし。<sup>土</sup>は汝<sup>の</sup>木と食ふ日に必ず死ぬべし  
 八、<sup>(八)</sup> 又<sup>汝</sup>の<sup>土</sup>と。  
 九、<sup>(九)</sup> また主なる神<sup>言</sup>ひ給<sup>は</sup>り、<sup>(十)</sup> 人のいそり  
 十、<sup>汝</sup>の<sup>善</sup>からず、<sup>わ</sup>の<sup>彼</sup>にかなお<sup>神</sup>脚者を彼のた  
 十一、<sup>(十一)</sup> めに造らんと。<sup>(十二)</sup> 主なる神<sup>土</sup>を<sup>野</sup>の凡この<sup>獸</sup>  
 十二、<sup>地</sup>の<sup>凡</sup>この<sup>鳥</sup>とを作り給ひ、<sup>(十三)</sup> <sup>鳥</sup>の<sup>凡</sup>この<sup>鳥</sup>  
 十三、<sup>(十三)</sup> 見んと、<sup>鳥</sup>の<sup>凡</sup>この<sup>鳥</sup>に<sup>連</sup>來り給へり、<sup>(十四)</sup> <sup>鳥</sup>の<sup>凡</sup>この<sup>鳥</sup>が<sup>生</sup>物に



日本ルーテル神學專門學校原稿用紙

ラ 名ツケたところは比白さ名をとりぬ。

の家畜と空の鳥と野の凡そ、獸とに名を

ニ ~~人~~ には ~~神~~ にかたし ~~神~~ 神ゆ者 見エたりす。

い主なる神 ~~人~~ 人を深く眠らしめ、眠りし時その助

ニ 骨の一つを取り、肉をもてその所を ~~人~~ 縫へり、

たの神 ~~人~~ 人より取られたる肋骨を ~~人~~ 縫へり、

ニ さかろ人の心こに連り來り給へり、

ニ ~~人~~ 人が骨の骨、わが肉の肉なる

ニ ~~人~~ 女と名をくし、

ニ ~~人~~ 故に人ゆえの父母と離れしその妻につま、彼ら

ル「肉」

ニ 一 体と名をべし。 ~~人~~ かり人との妻は二人共に裸

取ぢせりき。

第三章

一 さへ主なる神の造りたまへる野の獸の

中にて蛇最も狡猾 ~~人~~ 女に言ひ

ニ 神まことに汝ら園の ~~人~~ 木の實を食むべからず

ニ と言ひたまふしや ~~人~~ 女、蛇に言ひ

三 園の木の實を食む ~~人~~ ことを得る有り、

四 尖にあり木の實 ~~人~~ 汝ら木を食むべからず、又木

に土は ~~人~~ べからず ~~人~~ 汝ら死な

四 言ひたまふ ~~人~~ 蛇、女に言ひ

ル「蛇」は主なる神の造りたまへる野の獸の中にも狡猾なりき。

かく



神々

神々

五 死ぬるこゝろありし。五 此の神が草木を食ふ日には

六 神の目開け。神の如くなりし善悪を知りに

六 神の目開け。神の如くなりし善悪を知りに

七 共有。夫にも神の目開け。神の如くなりし善悪を知りに

八 無花果の葉を綴りて己の衣を造

九 小なり。ハ やかじ彼ら(園)の中に日々涼しき樹歩み給

十 小なり。神の声を聞きしは、かゝる人々を以て

日本ルーテル神學専門學校原稿用紙

一 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

二 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

三 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

四 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

五 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

六 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

七 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

八 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

九 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。

十 神の顔を辟けて園の木の間に身を隠せり。



西 子 蛇 われを惑はしたは 我 食へり 四

主なり、神、蛇に言いたるは 蛇 又 蛇を殺し

たりにありて、~~蛇は~~ 凡この家畜と、野に凡この獸より

しまりて、~~蛇は~~ 凡この腹はひて一生の間塵を

食ふべし、~~五~~ また我、蛇と女との間 および蛇の衣を

女より高き所に怒りて置かん、彼は蛇、頭を碎

たま、蛇はかゝる 躑を碎かん、~~六~~ また女に言いたる

蛇は、われ大りに蛇の娘の苦しさを増さん、

蛇、苦しき子を生む、また蛇は夫を慕ひ、彼は蛇

を殺めん、~~七~~ 又かゝる人に言ひ給へ、蛇は蛇の妻

を殺めん、~~八~~ 又かゝる人に言ひ給へ、蛇は蛇の妻

又蛇、蛇の苦しき子を生む

また蛇は、蛇の苦しき子を生む

また蛇は、蛇の苦しき子を生む

日本ルーテル神學專門學校原稿用紙

の聲に 聴きて、わが蛇に命じて、食ふべからずと云し

たの木の実を食ひしにありて、土は蛇のためを恨む、

蛇は一生の間~~九~~ 苦しき子を生む、また蛇は

と~~一〇~~ 蛇は、野の草を食はん、

蛇は~~一一~~ 顔に汗して糧を食ひ、遂に土に歸らん、

蛇は蛇の中より蛇は取らん、蛇は蛇なり、蛇は塵を食はん

塵に歸るべし、~~一二~~ かゝる、その妻の石を工と名

づけたり、蛇は彼、凡この生ける者の母なり、

蛇は~~一三~~ 主なり、神、かゝる蛇の妻の蛇の皮衣を造りて

彼らに看せたまへり、

また蛇は、蛇の苦しき子を生む

また蛇は、蛇の苦しき子を生む

また蛇は、蛇の苦しき子を生む



# 日本ルーテル神學專門學校原稿用紙

<sup>三三</sup>又主なる神言ひたり。神は。か人

我々の人々、如くなりて、美恵を知り、主なり、主なる神、

今、我々の手と心、生命の木の實をも取り、

<sup>三三</sup>食ひ、限りなく生まん。神は。か人

をエデンの園より出し、之を取りて、生かす、と、エデンの

園を東にケルヒムと。神は。か人、を出し、エデンの

園の東にケルヒムと。神は。か人、を出し、エデンの

生命の木の道を守り給へり。

**第四章** 一、か人、その妻エバを知り、カインと

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

此は、剣の焰  
の、剣の刃

此は、入るに

得たり。神は。か人、その妻エバを知り、カインと

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

カインを産みし言ふ。神は。か人、主なる神は。

此は、入るに

此は、入るに

此は、入るに

此は、入るに



○の待伏せし  
○の指し  
○の野に往らし  
○の神を

塵物の意

○の海人

エデン地

### 日本ルーテル神學専門學校原稿用紙

一〇 何處に居りやと。彼言ふ。われは  
 一〇 番人及びやと。主言いたまはし。何  
 二 ぞと問したるや。女の弟の血の聲。土より我に叫ぶ。三  
 三 園を這ひての弟の血と作り手より受けた。四  
 四 土を耕すことも雨びその力を地に與へし。五  
 五 地に居りし。六  
 六 時。カインの弟アベルに七  
 七 主。カインに言いたまはし。八  
 八 何處に居りやと。彼言ふ。九  
 九 番人及びやと。主言いたまはし。一〇  
 一〇 何處に居りやと。彼言ふ。一〇  
 一〇 番人及びやと。主言いたまはし。一〇  
 一〇 何處に居りやと。彼言ふ。一〇  
 一〇 番人及びやと。主言いたまはし。一〇

一三 主はまた流罪者とて。一三  
 一四 わが罰は大いにしる。一四  
 一五 今日この地の面より我を。一五  
 一六 顔よりかくす。地に。一六  
 一七 凡そ我に。一七  
 一八 主。カインに。一八  
 一九 七倍の復讐言。一九  
 二〇 彼を撃たむ。二〇  
 二一 カイン。二一  
 二二 地の住り。二二

よろめ



× 名流「ハノク」

エノクと産あり。カイン町を建て、その町の名も

一六 エノクの子の名にしたかひエノクと名づけたり。

一七 イラテ、メヤエルを生け、メヤ

一八 エル、メトエルを生け、メトエル、レメクを生あり。

一九 レメク二人の妻と娶たり。一人の名はアハと云ふ一人の

二〇 名はケラと云へり。アハ、ヤバルを産あり。彼は

二一 天幕に住みし水畜を飼ふ者の先祖

二二 その身より名ケラと云ふ、彼は琴と笛とを

二三 月と音の先祖

二四 産あり。彼は銅と鉄と凡の

二五 産あり。彼は

### 日本ルーテル神學専門學校原稿用紙

ニミルカインの妹はナアマなり。レメクその妻はナミ

ニミルカインの妹はナアマなり。

アハケラはわが声をおせ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

× 「エノク」

二五

二四

レメクは妻らよ、おの言葉に耳を傾けよ。

剣の歌

△ 「青銅」  
× 「研ぎ研ぎ」

○ 「創始者」  
△ 「先祖」



原注「種」  
「ハレ」  
「エ」

名簿

原注「産ませし後」  
「備りし後」  
「産ませし後」  
「産ませし後」

原注「産ませし後」  
「産ませし後」  
「産ませし後」  
「産ませし後」

（水は）  
（オ）

（我に）  
（い）

二六 小の代りに神、地の神を授け給ひ給ひたり。三六

セツにもまた男子を生きたり。彼等の名をエノスと名

第五五章

一 アカムの子を呼ぶに始りたり。神人をつく

ニリ給ひし日に、神にかたどりて彼を生じ給ひ。二 彼

らと男と女とにつくり給へり。神、彼らと視し給ひ。

彼らつらつし日に、彼らの名をアカム（人）と名づけ

三 給へり。三 アカム一百三十歳に及ひて己々にかたどり

四 九の像にしたかひて子を生み、その名をセツと名

づけたり。四 アカムのセツを生みし後、九の像は八百

日本ルーテル神學専門學校原稿用紙

原注「産ませし後」  
五 歳にし、男子、女子を生きたり。五 アカムの生きたり

六 九の像は凡そ九百三十歳なり。六 死

七 たり。七

七六 六 セツ百五歳に及ひてエノを授け給ひ。七 七

原注「産ませし後」  
八 七 年 生きたり。八 男子

ハ 女子を生きたり。ハ セツの九の像は凡そ九百十二歳

九 たり。九

九 九 エノ九十歳に及ひてエノを授け給ひ。九

一〇 エノを授け給ひ。一〇 八百十五年生きたり。一〇

二 一〇 男子、女子を生きたり。二 エノの九の像は凡そ